

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	講師	氏名	平林 恵美
----	---------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

我が国では、精神障害者の社会復帰活動やリハビリテーションは、医療の領域に限定された狭い意味で用いられてきました。近年では精神障害者の就労に対するニーズが高まり、その内容も多様化しています。過去に行った研究結果では、精神障害者の就労支援は、精神保健福祉士が職場開拓を行うとか、授産施設などにおける就労訓練・就労準備を行い、一般就労に向けた仕事を探すことが一般的であり、そのため、退院、社会への適応、就労などを社会復帰と表現していました。またリハビリテーションにおいては、過去の考えから大きく変わったものとして、「全人的復権」の考え方があります。現在では、医学モデルに基づいた治療から反省して、利用者の主体性や尊厳、自己決定権の尊重、自由を基調とするようになり、リハビリテーションには医療だけでなく、福祉的援助が不可欠であることが共通の認識になってきました。

以前より精神科領域で使われてきた「社会復帰」という言葉は、近年ではこの「リハビリテーション」に言い換えられてきているようですが、人が自ら持っている力を活かし、社会参加や自己実現をし、より良い生活をしていくために状況に応じて主体的に対処し、対応していける力を発揮できるように援助することは、ソーシャルワークの役割であるとともに、それはリハビリテーションの技術にも関わるものであると考えます。今後めまぐるしく変化する障害者施策の状況に鑑み、精神科リハビリテーションの実践的・理論的発展が喫緊の課題となっています。

今後の私の研究については、当事者の社会参加の方法、就労支援のあり方やその体系化の検討だけでなく、ソーシャルワーカーの役割と実践的課題について検討を深めていきたいと考えています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・平林恵美「第5章 障害者自立支援法と組織・団体の役割」新版 精神保健福祉士・社会福祉士養成セミナー編集委員会編集 精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー『第11巻 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』、へるす出版、2012年5月

### ②その他最近の業績

### ③過去の主要業績

- ・入江多津子・平林恵美「精神保健福祉援助演習 I における学生の学びの実際ー演習の意味を考えるー」『健康科学大学紀要』第7号、2011年3月
- ・荒田寛、池田武俊、岩尾貢、内出幸美、大谷のみ子、水井勇一、平林恵美、高村智子、山梨恵子、橋詰清『独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」平成21年度助成事業「認知症グループホームにおける運営推進会議の実態調査・研究事業」』報告書、2010年3月
- ・平林恵美『精神障害者の就労支援における福祉工場の機能に関する研究ー地域生活における「生活者」を重視した支援方法の展開の検討ー』財団法人明治安田こころの健康財団「2005年度研究助成論文集」通巻第41号、2006年10月

## 5. 所属学会

- ・日本社会福祉学会、日本病院・地域精神医学会、日本精神障害者リハビリテーション学会、(社)日本精神保健福祉士協会

## 6. 担当授業科目

精神保健福祉相談援助の基盤(専門)・2単位・2年・前期、精神保健福祉援助技術各

論Ⅰ・2単位・3年・前期、精神保健福祉援助技術各論Ⅱ・2単位・3年・後期、精神保健福祉援助演習・2単位・4年・通年、精神保健福祉援助演習・2単位・3年～4年・3年後期～4年後期、精神保健福祉援助実習・8単位・4年・通年、精神保健福祉援助実習指導・3単位・3年～4年・3年前期～4年後期、社会福祉学演習・2単位・3年～4年・3年後期～4年前期、卒業論文・6単位・4年・後期